応接室(二階)

アトリエ(二階)

持仏堂(記恩堂)

竹の間

蘆花浅水荘　名前の由来

唐の詩人司空曙が詠じた

『釣罷んで帰来　船を繋がず
江村月落ちて正に眠るに堪えたり
縦然一夜風吹き去るも
只在らん　蘆花浅水の邊』

は琵琶湖の南端に近い膳所の湖畔の風物にも相通じるものがある。蘆花浅水荘の名はこの詩の結句から名づけられた。

表門

書院

書院から見た庭園

文化の記憶を紡ぐ処

蘆花浅水荘

－円融山記恩寺－

山元春挙旧邸

全景

蘆花浅水荘（ろかせんすいそう）は、大正 10 年(1921 年)日本画家山元春挙（やまもとしゅんきょ）の別邸として滋賀県大津市中ノ庄に建てられた数寄屋造りの近代和風建築である。山元春挙が出生地にほど近いこの土地を購入し 1921 年に本屋が上棟された。敷地の西寄りに本屋と離れが建ち、敷地東側は築山と流水を伴う庭園で、持仏堂（記恩堂）、茶室などが建てられている。檜皮葺の表門を構え、1 階は居室、玄関、次の間、残月の間、座敷、茶室、竹の間、渡り廊下、持仏堂、土蔵、などで構成され、2 階はアトリエと暖炉のある西洋式応接室になっている。平成 6 年(1994 年)に国の重要文化財に指定された。現在の所有者は宗教法人記恩寺。庭園は蘆花浅水荘庭園として大津市指定文化財名勝になっている。創建当時は琵琶湖に面しており舟で直接庭に出入りが可能であった。